



三重県の寄附講座として地域を応援する みんなで考える医療づくりをめざして…



三重大学大学院医学系研究科
地域医療学講座 寄附講座・教授
武田 裕子 Takeda, Yuko
【URL】 <http://www.medic.mie-u.ac.jp/community-oriented/>

◎寄附講座について

三重大学大学院医学系研究科地域医療学講座は、三重県の寄附講座として2007年3月に開設されました。過疎化・高齢化が進む地域、交通が不便な地域における医療体制の検討や、地域医療に従事する人材育成について、三重県健康福祉部医療政策室と共に、取り組んでいます。

◎地域医療学講座の活動

地域医療学講座には、医師である教員3名、学術研究員1名、事務スタッフ1名が配置され、診療、教育、研究の3つの活動を行っています。

診療は、教員の専門領域において東紀州の病院診療を部分的に支援しています。教育活動としては、学生や研修医に地域医療の魅力を伝えるべく授業を担当し、地域医療実習や研修プログラムづくりとその紹介を行っています。学生・研修医は、実際に地域に出かけ地元の方と交流してはじめて地域医療の楽しさややりがいを実感します。いわば地域が医療の担い手を育てるのです。これを、地域基盤型医学教育といいます。さらに、地域医療を担っている医師・医療従事者への教育支援や地域住民への健康教育・啓発活動も行っています。紀南病院には定期的に出向いて、病院内外で行われている活動を支援しています(左ページ写真、図1・2)。

研究テーマは、地域や診療科によって医師不足が生じる背景因子の解明、遠隔地で勤務する医師の診療・教育支援の方法、医師の勤務環境などです。三重県の女性医師復職支援事業にも協力しています。

◎これからの医療

最近、医療崩壊という言葉をよく聞きます。その陰には、医療「過信」と医療「不信」があるようです。いつでも最善の治療が受けられ、病気は治って当たり前、思うような結果が得られなかったら医療ミスと決めつけては、医療従事者と患者のコミュニケーションは断絶するばかりです。

今や、日本全国医師不足です。病院の統廃合も進んでいます。またどのような医療

図1 紀南の医療をいっしょに考える会

紀南地域では、医師不足や医療体制などの問題をみんなで考えようと、集落ごとにタウンミーティングを行っています。紀南病院・医師会・消防・行政の関係者がそろって地域の公民館に向き、医療問題について情報提供するとともに、集まった住民と膝を突き合わせて意見交換を行っています。

図2 住民ボランティアの協力を得て行うコミュニケーション教育

地域住民が医療従事者を育てるという認識をもって、地域医療学講座では住民ボランティアを募り模擬患者として養成しています。ロールプレイを用いた研修で、医療従事者は患者役の住民との会話を通して、コミュニケーション能力を高めます。

が“最善”であるかは、その人の生き方や価値観によって異なります。人間の死亡率は100%、例外はありません。医療技術の進んだ現代だからこそ、本当に望ましい医療について一人ひとりが考える必要があります。

医療の受け手と送り手が信頼関係を築き、限られた医療資源を有効に活用して“最善”の医療を手にするための取り組みが、皆さんお住まいの地域のなかでも進むことを願っています。

***** お知らせ *****

休職中の医師の再就職支援

医師免許をお持ちで臨床の場から離れている方はいらっしゃいませんか？
もう一度、自分のできる範囲で資格を活かしたいとお考えの方がおられましたら、ぜひご連絡ください。

地域医療学講座では無理のない再チャレンジを応援しています。

●お問い合わせは●
電話番号 ☎ 059-231-5620

お待ちしています